

【What's 類型】

今回の類型は…「B1」です。「B」は個別学習のグループになります。「A」の一斉学習は「A1」の1つだけですが、「B」は1～5までの5つに分けられます。今回も図は文部科学省の「学びのイノベーション事業」実証研究報告書を引用しています。

ここが POINT

- ・児童が個人端末を使ってドリル教材などに取り組む。各自のペースで取り組み、教師は、進度を見て個別に支援する。
- ・児童が実技の分かりにくい部分について動画を繰り返し見たり、間違えた問題と似たものを繰り返し解いたりする。教師は、机間巡視、指導を行う。



《ICT！（いまこそ、チェックタイム）》

- ☐ どのようなドリル教材があるか知っている。
- ☐ 操作に困っている児童に対して必要な声かけができる。
- ☐ 動画コンテンツサイト（NHK for School など）を授業で活用できる。
- ☐ 説明動画や模範の動きを提示する動画を作成して、授業に活用できる。

参照：「令和2年度版 とっとり ICT 活用ハンドブック」 鳥取県教育委員会

【 ICT 活用実践紹介】

【花里小〇〇先生の実践】

教科：音楽

活用ツール：カメラ（動画）

類型：B1（個別学習・個に応じる学習）

内容：木星（合奏）

1. 【準備】教師が事前に木星の合奏を「ビデオ」で撮影しておく。（画面は楽譜を指し示す映像）
2. 【授業】個人練習のときに、その音声に合わせて練習をする。練習の際は、イヤホンをする。
3. 【授業】パート練習は、電子黒板に「ミラーリング」をして流す。

感想：自分の音も聞くために、イヤホンは片方だけする。

イヤホンは個人で準備



【岡田のおもいつ記】

今回の類型 B1 は個別学習なので、教員が師範の動画を見せるということは、A1 になります。同じ動画でも児童が自分の困り感に合わせて、主体的に活用することが求められています。ドリルアプリなどは、料金面などの問題もあります。近い未来、教材費で漢字ドリルではなく漢字アプリを購入する日が来るかもしれません。